

GOOD
LIFE
WITH
WOOD

KIMAMABITO
WINTER 2026 ISSUE

木ままびと。

木のある暮らしを
もっと自由に伝える ライフスタイルペーパー

VOL. **4**

Theme:kitchen

特集

美しいキッチンを訪ねて

WOODONE

Theme:kitchen

特集

美しいキッチンを訪ねて

暮らしの中心にある美しいキッチンからは、住む人の生き方が見えてくる。

生活のリズムに寄り添い、安らぎや楽しさが生まれる場所として

愛すべき小さなこだわりが詰まったキッチンを訪ねました。



やさしく暮らしをつつむ、木のぬくもり。

広島県Kさま邸
■新築戸建て(2階建て) 2025年竣工



ホルツバウハウス・設計士

村重サケユキ

キッチンを中心とし、家事動線を第一に考え設計した間取りのKさま邸。木を多く使い自然の景色に囲まれたリビング全体の調和を最優先に考え、本物の木が使われているウッドワンのキッチン「スージー」をチョイス。見た目の美しさはもちろん使い勝手の良い空間としても機能し、すっきりと整う暮らしを叶えました。

PICK UP

「この景色と住みたい」と思える場所で叶えた木のやさしさに囲まれて暮らす一軒家

清流のせせらぎをBGMに、目の前に広がる季節の移ろいや渡り鳥の来訪を楽しめる、そんな贅沢な風景を切り取ったかのような間取りの一軒家。室内にはできるだけ体にやさしい素材を使いたいと、床や建具だけでなく、目に入る天井にも木材を、壁には土佐和紙をと、自然素材をふんだんに用いたというKさま邸。窓の外にある緑と、木目のやさしい色合いで満たされた室内は、まるで自然の中に溶け込んでいるような心地よさ。キッチンを中心とし、家事動線を第一に設計された間取りだけに、どの作業をするにもスムーズでノンストレスなもの嬉しいところ。さらに、夢だった自宅用サウナも備え付けました。家を建ててからというもの、出かけるより家で過ごすのが楽しみになったというご夫婦。休日は家のサウナで汗をかき、テラスで川や山の景色を見ながら静かに整う時間もお気に入りだとか。どの部屋にいても木の香りとぬくもりを感じる住まいは、日常の忙しさを静かに忘れさせてくれるようです。



1_LDKの顔であるアイランドキッチンは、ご夫婦が自然と立ち寄る場所。 2_キッチンはほんものの木を使った「スージー」。キッチン前面は実はすべて収納。床材で使用されている杉との相性もよく、空間と調和しています。 3_キッチンに立った際に、美しい自然が目に入るように設計された大窓がお気に入り。4_川を眺められるテラスは、第二のリビングのような存在。 5_キッチン奥パントリーのキャブボードも「スージー」。パントリー入り口の角アールは奥様のアイデア。 6_キッチンのワークトップは、ステンレスパイブレーション仕上げ。光がやさしく溶け込み、無機質な素材なのにどこかやさしい印象に。



この家で使用されている WOODONE 商品



キッチン・キャブボード 無垢の木のキッチン su:iji「スージー」
樹種：ニュージーパイン® 扉グレード：NZ20 色：ナチュラル色

日本の暮らしに馴染む温かな色味で、素材そのものの温もりの中にも風格を感じさせるニュージーパイン®を使用した木のキッチン。手に触れる部分の細部にまで、使い手に優しい加工が施されています。経年により深みのある艶色へと美しく変化するのも楽しみ。



[設計・施工]

ホルツバウハウス
株式会社
住宅デザイン研究所



広島市安佐南区西原6-8-4
グレイスコード西原1F
☎:082-243-7622
www.jdk-arc.com

暮らしの真ん中のキッチンには、いつも穏やかに。

“美味しい”と“楽しい”に満たされた ちょっと自慢したくなるMy Home

設計者と施主Sさまご夫婦の何でも言い合える関係性から生まれたのは、心地よさと個性を共存させたスタイリッシュな住まい。ご夫婦で料理を楽しんだり、お客さまを迎えてくつろいだり、そんなシーンを思い浮かべながら、暮らしの中心にはキッチンをレイアウトしました。塗り壁、アイアンなど素材感を活かした空間に馴染むキッチンを探していたところ、出会ったのがこの洗練されたデザイン。素材の組み合わせや機能性、そしてまるでオーダー品のようなしつらえが、求めていたイメージに重なったといいます。「大柄なボクが動きやすいように、シンクとコンロ&キャビネットをセパレートにしたのも良かった」と旦那さまがほほ笑みます。邸内は仕切りをほとんど造らず、床の高さを変えた4つの階層で緩やかにゾーニング。最高部の格子のフロア越しの自然光が、ダイニングやリビングにやわらかな陰影を生み出しています。掃き出しの窓の外にはプライバシーに配慮した庭があり、植栽が景色を彩ります。光や風の息遣いを日常的に感じながら、穏やかな日々を描いています。

広島市Sさま邸
■新築戸建て(2階建て) 2025年竣工



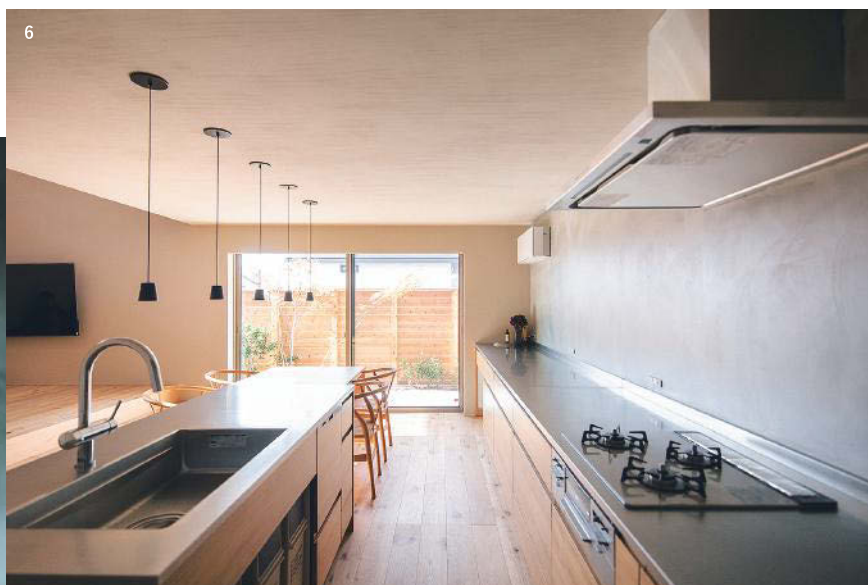
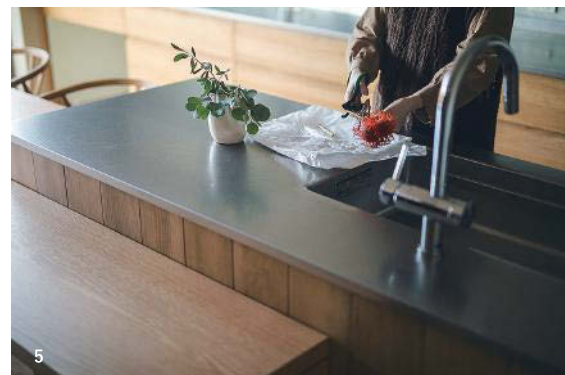
1_天井高を抑えて、吹き抜けのリビングとコントラストをつけたダイニング。リビングは床を約40cmスキップさせています。 2_借景を楽しめる和室。 3_リビング上部の格子のフロアはユーティリティなスペース。



積水ハウス・設計士

松本健志 さん

ウッドワンのキッチンは、ほんものの木を使っており、素材感を大切にした空間作りに非常に相性が良いと感じています。ショールームで実物に触れたことで、さらにその魅力をSさまご夫婦とも共有することができました。



7



4_大窓と格子フロアから差し込む光が心地よいダイニング。テーブルはキッチンに合わせて造作。 5_水や油をさっと拭くだけでOKのステンレスのワークトップ。カビなども発生しにくく、長くクリーンな状態を保つことができます。 6_収納も作業スペースもゆったり。「II型キッチンで、シンクとコンロの間に余裕があるため、ふたりで仲良くキッチンに立つことができます」とSさまご夫婦。 7_アプローチの植栽は和のテイストで仕上げています。

この家で使用されている
WOODONE 商品



キッチン 無垢の木のキッチン su:iji[スイージー]
樹種:ニュージーパイン® 扉グレード:NZ20 色:ライト色

木の表面を磨き上げ、木目を立体的に浮き上がらせたニュージーパイン®のキッチン。ほんものの木ならではの風合いが際立ち、ぬくもりを感じさせる手触りを日々楽しむことができます。S様邸の床材で使用しているオークとも相性の良い色味です。

[戸建・賃貸住宅・マンションの建築]

積水ハウス株式会社 広島支店



広島市安佐南区西原5-16-6(ケイ・ティ・ビル3F)
☎:082-871-8001
<https://www.sekisuihouse.co.jp/lien/34/5040030010/>

wood column

Good life — 木と暮らす — with wood

居心地のいい場所には、いい木がある。

素敵なお空間、愛しいおもちゃ、ともに暮らす家具などぬくもりあふれる木の魅力をめぐる3つの物語。

TITLE

足もと倶楽部

今回、お邪魔したのはコチラ



泉薬湯 温泉津温泉元湯(せんやくとう ゆのつおんせんもとゆ)

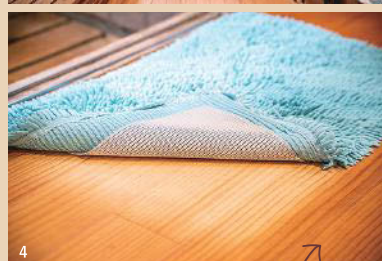
温泉津にて自然自噴し湧出した唯一の源泉を守り続ける療養泉。1400年以上湧き続ける霊泉として、古くから湯治や保養を目的として親しまれ続けています。

島根県大田市温泉津町温泉津口208-1
☎:0855-65-2052 営:3~11月(6:00~20:00)、12~2月(6:00~19:00)
※月・木は一部会員制 一般利用は6:00~8:00
休:毎年11月、第3月曜

案内してく
れたのは
この方

I.M.さん

温泉屋(ゆや)を開湯した先祖の歴史と温泉を守り、その魅力を今に伝えるI.Mさん。お湯ほどに、情も熱い。



バスケットを敷いて、いいところ
きれいな館色に!

- 1_原爆後遺症を患う方の湯治療養として効能が認められたことを記す記念碑が残る。
- 2_自然の力でじっくり湧き出た源泉を、そのまま浴槽へ。源泉から浴槽までの距離が非常に短い湯は熱めで、体の芯まで沁みる湯心地。
- 3_湯治に訪れる地元の常連さんたちの、ひとときの憩いの場となる脱衣場。
- 4_長く使い込まれた床は柔らかな艶色となり、色の変化もやわらかで美しい。



湯上がりにふれる、木のぬくもり。

熱〜いお湯で心も体も整ったあと、脱衣所に踏み入れた瞬間、足の裏にふれる木の感触。体の熱をそっと受け止める床の快適さも、湯治に来る人にとって大切な要素です。歴史を重ねた湯治場だけに、改修の際には細心の注意が払われ、使用する床材などは実績のある宮大工に任せただとか。元々使われていたのが松の木だったことから、選ばれたのはニュージーパイン®のフローリング。さらりとした足ざわりが心地よく、寒い日はあたたかく、湯上がりに濡れた体とほてりをやさしく受け止めてくれます。

pickup

ここで
使用されている
WOODONE
商品



無垢フローリング ピノアース足感フロア うづくり ナチュラル色
(長さ×幅×厚さ(mm)):1,818×120×12)

調湿作用に優れ、湿度変動を抑え、結露の少ない快適で健康的な空間を作り出すことができます。自社が管理するニュージーランドの森で一本一本ていねいに育てられた、木のブローッドワンのこだわりが詰まったフローリング。





TITLE

木がある風景を訪ねて。

道具、飾り、愛すべきもの…。人の暮らしには、人によりそう木の姿がある。そんな

ワンシーンを訪ね、津々浦々。



1_食器から民藝品、謎の置物まで、幅広くそろうのが蚤の市の醍醐味。 2_古い物は作りがシンプル。経年で変化する木の色味も価値になる。 3_木製の色の深まりや剥がれは誰かに愛された記憶。年数を経るたび、やさしさも帯びていく。

筵會莫塵市廣島朝筵（むしろかいございちひろしまあさむしろ）
広島県廿日市市宮島口にて、春分の日と秋分の日2回行われる蚤の市。

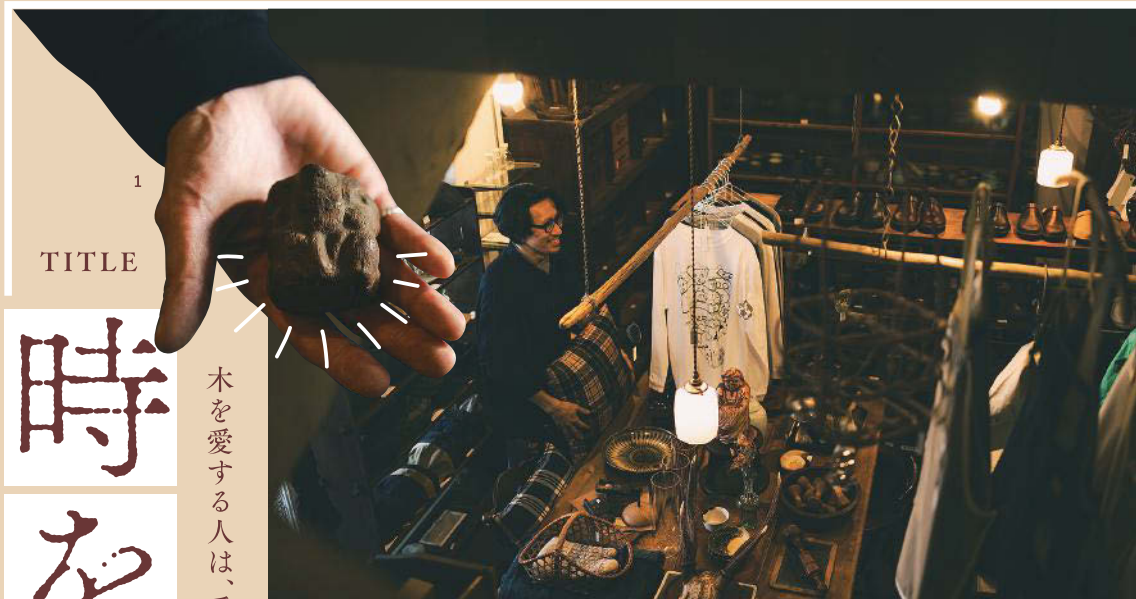
会：宮島口旅客ターミナル前 広島県廿日市市宮島口1丁目
問：むしろかいございち実行委員会
☎：082-881-7381



主催の只津さん(左)と大久保さん(右)。

長く愛された木たちは永遠に。

まだ夜の気配が残る早朝5時。暗闇に目を凝らすと、テントを行き来する人の姿が。ここは、広島・宮島口で行われた古物朝市。古い食器や雑貨などが所狭しと並べられ、なかでも目に入っただのは椅子や棚、雑貨など味わい深い木の古道具たち。長く愛されたのち、また次の場所へ。静かに佇む姿は、役割を引き継がれる順番を待っているようにも見えました。



1

TITLE

時を経て、深まるものたち。

木を愛する人は、愛し続けることを知る人でもある。



2



3

4

木とその周辺で生きる人たちに感じる、しなやかさと強さの原点とは。

古道具は語る。 過去の営み、未来への想い。

昭和の骨董ブームが終わり、広島では骨董市が減少。姿を消した広島の蚤の市を再び開催へと動いたひとりが、FRASCO店主・只津敦庸さんでした。只津さんが立ち上げ、筵會莫塵市廣島朝筵（むしろかいございちひろしまあさむしろ）と名付けられたこの蚤の市は、2025年に第12回を迎えました。国内外問わず古道具やアンティーク、レストアされた家具が並ぶ只津さんのお店。「懐かしさとはかなさを併せ持つ古い道具は、生活と色濃く結びついている」と話します。木製ちゃぶ台は、その高さ一つとっても、お膳での個食から、人が集まり食卓を囲む暮らしへと変わっていく日本の食文化の変遷を読み解くことができる道具のひとつ。人の手が触れる場所は角がとれ、艶が出て色が深まってくる。木の魅力は、「人工的なものが自然物に戻っていく」その過程が見えること、という只津さん。過去から今に引き継がれる木の古道具は、わたしたちに小さな新しい気づきを伝え続けてくれます。



FRASCO 広島県広島市佐伯区海老山町4-17 1F
営：12:00-18:00 休：火・木曜



1_只津さんのお気に入り、恵比寿天(で、あろう)木製の置物。もう顔も姿もはっきりしないほど人の手によって滑らかに磨かれてしまっている。誰かが大切にしてきたことを証明するかのよう。 2_新品も「いいと思うかどうか」のみを基準としてセレクト。長く愛せそうな靴や衣類が並ぶ。 3_暮らしに欠かせない木製道具ほど使い込まれ手に馴染み、艶が出る。 4_古いものは幅広く、家具や食器、民藝品、工業製品のパーツなど様々。みなそれぞれに過去を語る品ばかり。

WOODONE info

ウッドワン編集部
からのお知らせ

無垢の木のキッチンsu:ijiに国産材“桧”の扉が新登場。

CHECK! 色調も香りも清々しい日本の桧。

「火の木」が語源とされるほど日本人とともに歴史を紡いできた桧。きめ細かな木肌や、くっきりと色濃く浮かんだ木目、美しいツヤのある表情が魅力です。



どんなインテリアテイストにも

合わせやすい!



引出しの中まで
こだわっています。

CHECK!

センターゾーン1段目の引出しの中には、扉と同じ樹種のカトラリー仕切りが。扉を開けた時にも、木のあたたかみを感じることもできるしつらえです。

教えてくれたのは...

ショールームスタッフ

T.H. ●入社7年目
●好きな時間: やきものの器探し

桧のあたたかみに包まれて日々を楽しむ。

日本の四季が育んだ国産桧を、スージーの扉に採用。神社仏閣や舞台、風呂などに古くから使われてきた桧は、殺菌・防虫効果があります。扉材には、まさめ ひふし 柂目で無節の材を厳選。国産桧の無垢材を贅沢に使い、伸びやかな木目を一層際立たせています。また、桧本来の色に近い色調を活かす塗装(クリアホワイト色)

で仕上げています。キッチンが清潔感あふれる印象になり、和の趣がある住まいにも調和。国産の桧材を日常の暮らしに取り入れることは、日本の森林保全にもつながります。使い込むほどに、少しずつ褐色になっていく「経年美化」も感じられます。家族とともに育っていく様子が見られるのは無垢材ならではの楽しみです。

詳細は
コチラ



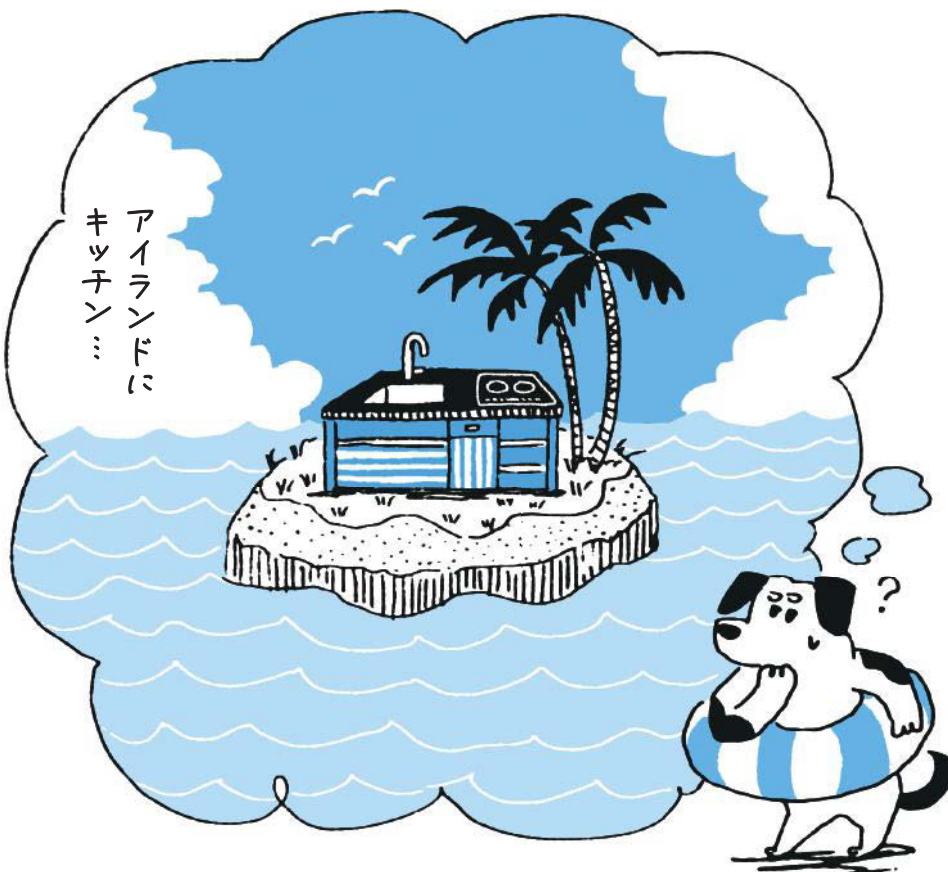
スージー 桧 | 検索

楽しんでお家づくりについて考えたい

気になる *MyHome*

#001 『アイランドキッチン』

アイランドに
キッチンミ



アイランドキッチンってなあに?

壁から離して設ける、島(アイランド)のように独立したキッチンです。動線が確保しやすく、空間を広く見せます。



イラスト: カランソエル

木ままびと。
GOOD LIFE WITH WOOD

特集で使用されている WOODONE商品



Kさま邸
キッチン・カップボード 無垢の木の
キッチン su:iji[スージー]
樹種: ニュージーパイン®
扉グレード: NZ20 色: ナチュラル色



Sさま邸
キッチン 無垢の木のキッチン su:iji[スージー]
樹種: ニュージーパイン®
扉グレード: NZ20 色: ライト色

掲載情報は2026年1月時点のものとなります。本誌掲載の写真、イラスト、記事の無断転載を固く禁じます。

WEBサイトのご案内



『木と、くらそう。』
木と人のかかわりを
いろいろな角度から
見つめるサイトです。



ウッドワン kimama

| 検索

Instagramのご案内



KIMAMA.WOODONE

Kimama.

木のある暮らしを、もっと気ままに。
色々な物語をていねいに
集めています。

#kimamaな暮らし



@WOODONE_KURASHI.OFFICIAL

素敵な木のある
暮らしを発信中

ウッドワンの商品情報と
採用事例を掲載する
アカウントです。